山のよこほれるをみて、人にとへば、やはたのみやといふ、これをきゝてよろこびて、ひとゞをがみたてまつる、山ざきのはしみゆ、うれしきことかぎりなし、

〔勘仲記〕弘安五年十二月廿日丙午、八幡神人嗷々、訴申寺清社務幷薪庄事、神輿一基、今日御入洛、爲新社務之沙汰、令引大渡橋云々、神輿奉振棄橋邊了、神人構假屋奉安置云々、

〔保暦間記〕同弘元三年正月七日、尊氏大渡ニ付、義貞以下京都ヨリ又馳向フ、橋ヲ引テ合戰ス、

〔太平記九〕山崎攻事附久我畷合戰事

四月三年元弘廿七日ニハ、八幡、山崎ノ合戰ト兼テヨリ被定ケレバ、名越尾張守大手ノ大將トシテ七千六百餘騎、鳥羽ノ作道ヨリ被向、足利治部大輔高氏ハ搦手ノ大將トシテ五千餘騎、西岡ヨリゾ被向ケル、八幡、山崎ノ官軍是ヲ聞テ、サラバ難所ニ出合テ不慮ニ戰ヲ決セシメヨトテ、千種頭中將忠顯朝臣ハ五百餘騎ニテ、大渡ノ橋ヲ打渡リ、赤井河原ニ被扣、

〔太平記十四〕將軍御進發大渡山崎等合戰事

去程ニ正月三年建武七日ニ、義貞内裏ヨリ退出シテ軍勢ノ手分アリ、略中大渡ニハ新田左兵衛督義貞ヲ總大將トシテ、里見、鳥山、山名、桃井、額田、田中、籠澤、千葉、宇都宮、菊池、結城、池風間、小國、河内ノ兵共一萬餘騎ニテ堅メタリ、是モ橋板三間マバラニ引落シテ、半ヨリ東ニカイ楯ヲカキ、櫓ヲカキテ、川ヲ渡ス敵アラバ横矢ニ射、橋桁ヲ渡ル者アラバ、走リテ以テ推落ス樣ニゾ構ヘタル、略中去程ニ略中正月九日ノ辰刻ニ、將軍尊氏足利八十萬騎ノ勢ニテ、大渡ノ西ノ橋爪ニ推寄、橋桁ヲヤ渡ラマシ、川ヲヤ渡サマシト見給ニ、橋ノ上モ川ノ中モ敵ノ構ヘキビシケレバ、如何スベキト思案シテ、時移ルマデゾ引ヘタル、時ニ略中橋ノ上ナル櫓ヨリ、武者一人矢間ノ板ヲ推開テ、治承ニ高倉ノ宮ノ御合戰ノ時、宇治橋ヲ三間引落シテ、橋桁計殘テ候シヲダニ、筒井淨妙、矢切但馬ナンドハ、一條二條ノ大路ヨリモ廣グニ、走渡テコソ合戰仕テ候ヒケルナレ、況ヤ此橋ハ、カイ楯ノ料